



明日につなげるまちおこし
キーワードは「連携」

閉会式にて、参加団体やスタッフなど全員が肩を組んで一体となった瞬間



- 1 声を合わせて元気に「ラビアンローズ！」
- 2 3 パネルを使って大きな声で十和田自慢
- 4 一味を振りかけるのも真剣
- 5 たくさんの人で賑わうバラ焼キッズパーク
- 6 十和田西高生が各ブースで調理を担当しました
- 7 三本木小の児童らが収穫したタマネギが入った「十和田バラ焼き一味」も販売しました

十和田バラ焼キッズパーク
子どもから大人まで
元気にわが街自慢

B-1グランプリから学ぶ
これからのまちおこしの姿

「心が洗われる大会」「おもてなしを実感した」「こんなに若い人たちが活躍したイベントを初めて見た」参加団体が、口々にこのイベントをたたえました。バラゼミの活動は、たくさんの人を巻き込み、人の輪を広げました。B-1グランプリは、「人づくり」。さまざまな場面で活躍している人々が一堂に会し、出会うきっかけとなる場です。B-1グランプリは、まちおこしの始まり。B-1グランプリが終わった次の日からが本当の意味での勝負です。

Interview

十和田バラ焼きゼミナール
舌校長・畑中 宏之さん



今まで活動してきたことが実となり、十和田プライド構築の第一歩となりました。バラゼミが指揮役となり、多くの市民を巻き込んで連携し、日本一のまちおこしのシンフォニーを奏でたいです。連携、こそ、これからのまちづくりの手法なのです。



十和田バラ焼きゼミナールと共に活動（十和田西高・3年）
しもやま

下山 セイカさん

バラゼミと共に活動するたびに達成感はあるけれど、もっと力になればと思います。次は11月に愛知県豊川市での全国B-1グランプリが控えています。まちおこし活動に終わりはありません。十和田をもっと発信して、活性化につなげたいです。

Interview



おがさわら しゅん
小笠原 舜くん
(高清水小・6年)

最初は緊張したけど、みんなと協力して活動できて楽しかったです。もっと、やりたくなりました。PRのために十和田のことを調べたら、知らないことがまだまだたくさんあって、十和田を改めて好きになりました。今回のように今後も十和田の魅力を発信していきたいです。



三本木小ブース担当
十和田バラ焼きゼミナール
おかだ よしゆき
岡田 義幸さん

十和田の魅力を伝えるため、子どもたちが自分たちで試行錯誤して頑張っていました。大人では伝えられない魅力を子どもたちが発信してくれたと思います。今後も人の輪を広げて、みんなで連携して取り組んでいきたいです。

今回のB-1グランプリは大人から子どもまでいろいろな人が活躍しました。駒つこ広場では、バラゼミとまちおこし活動に取り組み「十和田バラ焼キッズパーク」の三本木小、松陽小、高清水小の3校が出展。それぞれ十和田湖と牛、奥入瀬ガリリックポーク、あおもり短角牛を使った特色ある十和田バラ焼きを提供しました。

また、タマネギは三本木小の児童らが三本木農業高校で収穫したものを提供しました。各校にバラゼミの担当が付き、十和田西高生が調理を行いました。児童らが十和田のことを調べてまとめ来場者に向けてパネルなどを使い、元気よくPR。保護者も先生も一緒になって十和田自慢を行いました。接客もばっちり。バラ焼きを受け取ったかたに向けて「ラビアンローズ！」と呼び掛けたり、バラ焼き一味を振りかけたり。また自主的に来場者に声を掛ける姿も見られました。子どもならではの元気溢れる「わが街自慢」に、訪れたかたは笑顔で応えていました。